

「感じ」「動き」「かわる」…新たな未来にむかって！



さくらの学校だより

平戸市立田平東小学校 学校だより 令和7年10月20日 文責：校長 森川 稔

収穫の秋

5月にもみまきし、6月に田植えを経験した5年生ですが、今回は稲刈り体験をしました。実習田に着くと、たわわに実った稲が頭を垂れています。お世話をしてくださった保護者の方やJA青年部の方から教えていただきながらさっそく作業開始です。

ほとんどの子が初めての体験で、稲刈り用の鎌を使っの稲刈りは大変でしたが、慣れてくると作業もスムーズに進むようになり、たくさんの稲を刈ることができました。刈り取ったあとは、稲を束ねて「稲架（はさ）かけ」してしばらく乾燥させます。このあとの脱穀や精米の作業もありますが、田植えに続きご多用な中ご指導いただいた皆様に感謝申し上げます。



地域を学ぶ

長崎県の学校教育が目指す重点項目の一つに「ふるさと教育」があります。学校での学習において、地元田平町や平戸市、長崎県について学ぶことは、これから社会の中で生きていく子どもたちにとって、ふるさと感じ、誇りに思い、自分ができることを考える機会になります。



5,6年生は社会科や総合的な学習の一環で、市内の薄香漁港の水産会社に校外学習に行きました。現地では、魚を育てる水産業の仕事についてとても分かりやすく説明していただきました。その中でも、特に環境悪化による赤潮の被害や、稚魚から出荷できる大きさまで育てることの難しさなどについてメモをとりながら真剣に聞いていました。

次に船に乗せていただき、実際に魚がいるいかだでえさやり体験をしました。固形のえさのにおいや大きさなどを確認したあと餌をまくと…ものすごい勢いで餌を食べるタイの様子にみんなびっくりしていました。



海から戻ってきたあとは、マイナス 20 度の冷凍庫やブリの解体の様子などを見せていただきました。この学習を通して、水産業の仕事はもちろん、食の大切さや日常生活のありがたさに気づくことができました。

また、3年生も総合的な学習で3年生は、社会科の時間の一環として、保護者の方の牛舎見学に行きました。身近な食べ物のひとつである牛肉がどのような過程を経て私たちのもとに届くのかを知ること。そして、田平町で行われている産業の様子を知り、地域の特徴を知る学習です。見学では、牛の飼育の様子やえさの種類、毎日どのような工夫や努力をしているのかなど、たくさんのお話を聞くことができました。子どもたちは真剣な表情で説明を聞き、静かに見学する姿が見られました。また、気づいたことを一生懸命メモに書きとめる姿からも、学びに向かう意欲が感じられました。



今回の学習を通して、私たちが毎日食べている食べ物の一つ一つには、多くの人の手間や工夫、そして動物たちの「いのち」が関わっていることに気づくことができました。子どもたちは、「食べ物を残さず食べたい」「命をいただいて生きていることを大切にしたい」といった思いを言葉にしており、学びを通して自分自身の命や周りの人の命の大切さについても考えを深めていました。これからも、今回の学習で得た気づきを日々の生活の中でも生かし、「命」や「食べ物」を大切にする心を育てていってほしいと思います。

学習の秋

本校は、子どもたちの学力向上を目指し、校内研究で「算数科を中心とした『豊かな表現力』の育成」をテーマに研究を深めています。その一環として、先日は5年生の外国語と2年生の算数科で研究授業を行いました。授業の中で、自分の思いや考えを自分の言葉で表現する場面を意図的に設定し、深い学びにつなげるようにしています。5年生は、「新しく来られたALTに平戸市（田平町）のおすすめスポットを紹介しよう」というテーマで、タブレット端末を使いながら道順や施設の紹介を考え、わかりやすく伝えようとしています。2年生は、図形の学習で、三角形と四角形を仲間分けし、その理由をグループで出し合いながら考えをまとめています。

校外学習も続いていますが、教室での学習も充実しています。まさに“学びの秋”です！



田平東小HPはこちらから→

